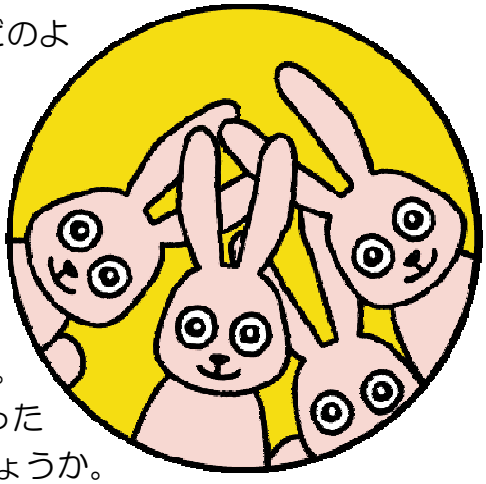
コーディネーター通信
イナバ　タイムズ
INABA TIMES
第43号　平成24年9月11日　三重県立稲葉特別支援学校　特別支援部発行

２学期が始まりました。



２学期がスタートしました。この長い夏休み、どのように子どもたちは過ごされたのでしょうか。

夏休みの楽しい思い出はできましたか？色々なところに遊びにいったのでしょうか？宿題があるお友達は、宿題を頑張りましたか？もしかすると、テレビの前でオリンピックの応援をしたお友達もいたのかもしれません。様々な福祉サービスを活用して友だちもできた方もいるかもしれません。

保護者の皆様にとっては、ようやく学校が始まったと、ホッとされている方もみえるのではないでしょうか。

９月３日（月）、小中昇降口では、担任の先生がにこやかな表情で子ども達の登校を待っていました。真っ黒に日焼けした子どもたち、背が高くなった子どもたち、ちょっとふっくらした子どもたち、一回りも二回りも成長した子どもたち、先生も口には出しませんが「会いたかったよ！」とそんな声が聞こえてきそうな朝の登校場面でした。

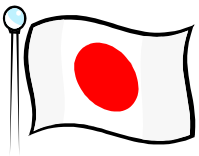
始業式では、校歌斉唱、校長先生のお話、各学部の歌やダンスの発表がありました。小学部は、「カエルの雨降り音頭」のダンス、中学部は「世界に１つだけの花」の合唱、高等部は、アニメのワンピース「ウイアー」の合唱でした。

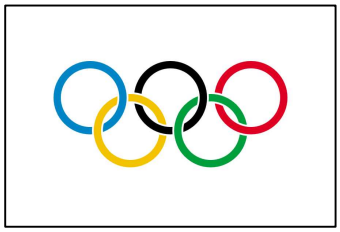
校長先生からは、夏休みの過ごし方について質問があり、「宿題してきた人？」の問に、「ハイ、ハイ、ハイ」と多くの声と手が上がりました。頼もしい限りです。さらに、オリンピック出場のピストリウス選手のお話も聞かせてもらいました。

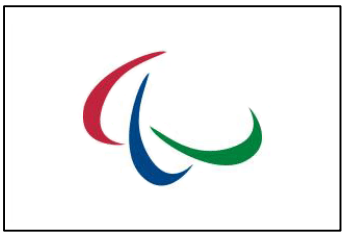
写真１．始業式で手を挙げる子ども達

さて２学期は、大きな行事が控えています。運動会と学校祭があります。今から準備や練習で忙しい日々が続きます。まだまだ暑いですが、体調に気をつけて、練習に励んでいきたいと思います。

オリンピックとパラリンピック





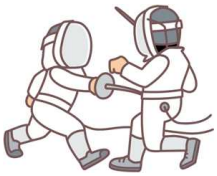


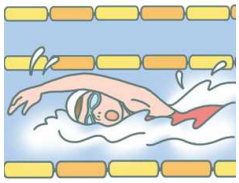
今年の夏は、オリンピックの応援で、寝不足になった方も多かったのではないでしょうか。津市出身の吉田沙保里選手が 3 連覇を達成し、水泳やフェンシング、サッカーなどでのチーム競技でのメダル獲得。また、日本は、過去最高のメダル数を獲得するなど、話題の多いオリンピックでした。

南アフリカのオスカー・ピストリウス選手は、両足義足で 400 メートル走、1600 メートルリレーに出場し、とても勇気づけられました。

パラリンピックでも知的障がいの方の参加は、2002 年のソルトレイク大会よりできなくなっていましたが、このロンドンでのパラリンピックから卓球や水泳の種目に参加することができるようになりました。

オリンピック、パラリンピックを見て感じたことは、「夢を持ち続けること」「挑戦すること」「仲間と協力すること」が挙げられると思います。私達も子ども達に夢を持てるような教育を、そして、いろんなことに挑戦できる強い気持ちを養い、友だちと共に過ごし、友だちを意識し、友だちが困っている時に助けることができる、そんな関係を学校でも育てていければと思います。





＜引用及び参考ホームページ＞

ロンドンパラリンピック　　http://london.yahoo.co.jp/para/

ロンドンオリンピック 2012JOC　　http://www.joc.or.jp/games/olympic/london/

スクールバスが新しくなりました。

写真２．久居コース　スクールバス

久居コースのスクールバスが新しくなりました。車体は全面ピンク色、アクセントに他のバス同様緑の半円形の模様です。

職員の間では、その色合いから、まるで、「柏餅」のようだ。といった声が上がっています。学校へお越しの際は、同じデザインで、青、緑、白、ピンクと 4 色揃ったバスを、ぜひご覧ください。

本校で『地域支援講座』が開かれました。

本校では、センター的機能の取組として、平成 19 年度より毎年夏に、地域の先生方への研修協力及び交流の機会を持つことを目的に、ミニ講座が開かれていました。昨年は、残念ながら実施を見送ったのですが、今年は名称も「地域支援講座」と変更し、8 月 23 日（木）に実施しました。全体講演（午前）は、筑波大学の熊谷恵子教授による「発達障害のある子への支援―就学前から思春期を中心に―」という題目で 2 時間の講演会。各講座（午後）は、14 講座を設定し、本校教員がそれぞれ提案者、司会者、記録者として、その講座を運営しました。今年は、本校の情報部と総務部を除く全分掌、各学部、さらに体験講座として「ムーブメント」と「椅子の座面編み」の２つの講座を加え、私たちが行っている日常の業務について振り返るとともに、話題を提供しました。

外部からの参加申し込みは 95 名。当日は 88 名の参加がありました。以下にアンケートに記入いただいた外部参加者の結果の一部を掲載します。

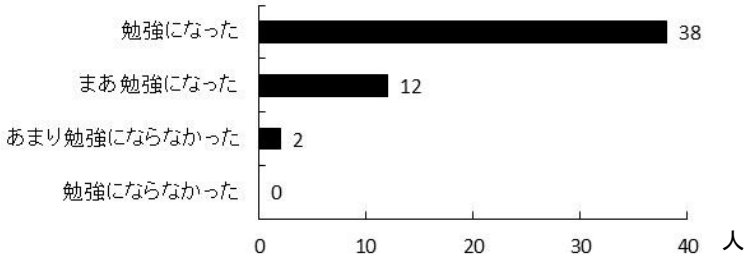


図１．全体講演会（午前）を聞いていかがでしたか。（52 人）

アンケートに記入していただいた 52 名の参加者からは、「勉強になった」という意見が最も多く、「まあ勉強になった」も合わせると、記入いただいた 96%が勉強になったという意見でした。嬉しい限りです。

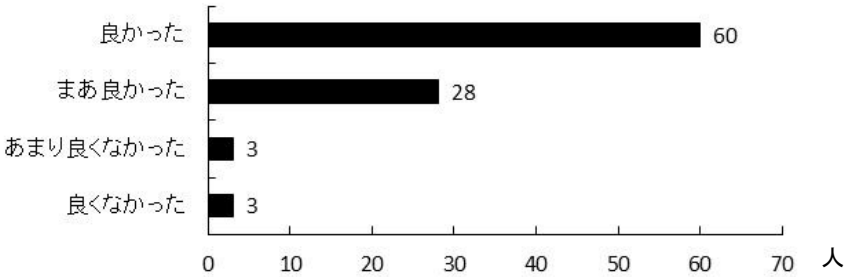


図２．各講座（午後）の内容についていかがでしたか。（のべ 94 人）

午後からの各講座に参加しアンケートに記入していただいた方の結果として、「良かった」が最も多く、「まあ良かった」も合わせると、94%が良かったという意見でした。これもまた嬉しい結果です。なお、人数については、2 講座参加が可能であるため、94 人はのべ人数です。

外部からの参加の皆さんにとって、本校の地域支援講座はおおむね良好であったという評価をいただくことができました。ありがとうございました。

今後、当日の様子を本校ホームページでも掲載する予定です。ぜひご覧ください。

伊勢新聞に掲載されました。

平成24年(2012年)8月24日　金曜日　(8)

中勢伊賀

津市　伊賀市
名張市　松阪市
多気郡

伊賀総局

松阪紀勢総局

発達障害 早期把握を

津の特別支援学校 教職員に筑波大教授講演

【津】津市稲葉町の県立稲葉特別支援学校（浅生館校長）は二十三日、同校で地域支援講座を開催した。特別支援教育の専門性の向上につなげようと今年で五回目。午前は全体講演、午後は同校……講演する熊谷教授＝津市稲葉町の県立稲葉特別支援学校で

教諭による十四の講座があり、県内の幼稚園・保育園から高校までの教職員ら合わせて約二百人が参加した。

午前には、筑波大学人間系の熊谷恵子教授が「発達障害のある子への支援」と題して講演した。熊谷教授は、発達障害は学力に遅れはないが行動面が極端に稚拙など、発達のアンバランスがあるために知識やスキルが入らず、学校では「勉強ができない子」とされてしまうと説明。地覧、視覚、運動覚などその子の優位な能力を生かす指導で、短い時間で改善した例を紹介した。

また、幼少期から目的傾向がありながら対応しなかった結果、思春期に家庭内暴力や性非行に至った事例を基に「周囲が早期に発達の傾向を理解していれば問題は大きくならなかった」と、地域と家庭が連携する重要性を指摘した。

これまで外部から参加して頂いた人数は、以下の図３のとおりです。

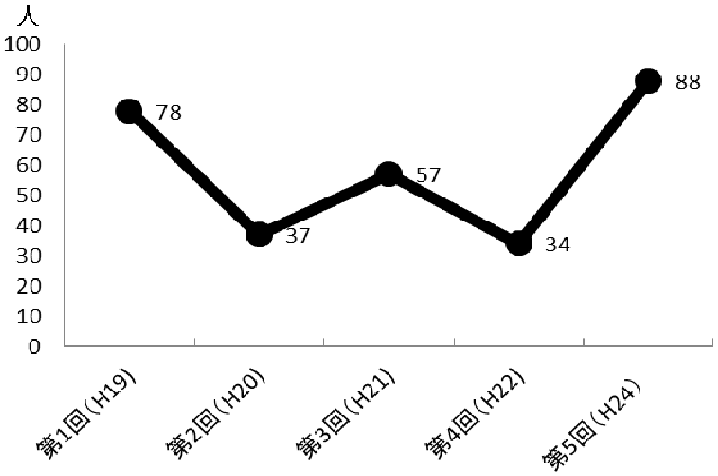


図３．外部参加者の推移

外部からの参加者は、年々減少していましたが、今回の地域支援講座で過去最高の最も多い参加者数となりました。

特別支援教育に対するニーズは、まだまだ高いことが分かりました。

（両面共　文責　小中 Co.　西井孝明）